

小宇佐さんの周りはいつも笑い声でいっぱい。
「みま〜も」は、誰でも参加OK。手話ダンスも、料理教室も、
子供と一緒に楽しめる内容になっている。
ぜひ一度のぞいてみては？



アキナイ山王亭に集う人たち③

地域包括支援センター入新井 保健師 **小宇佐 陽子さん** (30歳)

久保さんのように、クラスの内容によって、生徒が先生になり、先生も生徒になるのが、みま〜もの特長だ。どういう経緯で先生になったのか久保さんに聞いてみたところ、実は久保さん、人に教えるのは苦手で、「しつこく誘われて無理矢理」やらされていたそう。

そんな話をしていると「そうなのそうなの。この人しつこいのよ〜」とあちこちで声があがり、1人の女性にみんなの“にやり”とした視線が集まった。

視線の先にいたのは、小宇佐陽子さん。これらの教室を運営している、「みま〜も」の活動を応援しているさわやかサポート入新井の保健師として1年半前から働いている。

「こういった高齢者の支援センターを、65歳以上の人だけが来られる場ではなく、地域の人誰もが立ち寄れて声をかけあえる場にしたい」と、持ち前の明るさで奮闘する、ムードメーカーだ。人一倍大きな声で笑い、人一倍たくさん“先生”に質問する、クラスーのおてんば娘。イベントごと、みんなを引っ張っている、というより、誰よりも楽しんでいるようにさえ見える。“しつこく”誘われても嫌にならないのは、小宇佐さんの、そんなキャラクターも一役買っているのかもしれない。

おてんば娘でありながら、学級委員長のようなしっかり者の一面も持つ小宇佐さん。みま〜もへの参加者を“先生”に

するのも、『人は、頼られたり役割があることで、自分らしさや存在意義を得られ、それにより前向きになれる、心が穏やかになれるから』という、小宇佐さんのはっきりとした考えがあつてのこと。保健師ならではの観察眼と知識で、高齢者をあたたかくサポートしている。

アキナイ山王亭ができて、今まで以上に、みま〜もの活動が商店街から見えやすくなった。これをきっかけに、年代を問わず、みま〜もが、地域の人の何気ない集い場になってほしいと、小宇佐さんは期待を込める。

目指すのは、「サザエさんみたいな地域」。小宇佐さんがいてくれば、その日は近いかもしれない。

